

第7回審議会にて配付した計画【原案】を一部抜粋
修正箇所 = 取り消し線 → 朱書きにより修正

P22

4 権利擁護の推進

○認知症による判断能力の低下や虐待など、困難な状況にある高齢者が、住み慣れた地域で尊厳ある生活を続けるために、高齢者虐待の予防や早期発見・早期対応、成年後見制度の利用支援、消費者被害の防止や対応など、専門的な視点から、高齢者の権利擁護のために継続性をもった支援が必要です。

5 高齢者虐待の防止

○高齢者虐待への対応では、高齢者本人だけでなく養護者の介護負担軽減、家庭内の課題の解消のための介護保険サービスの導入や見守り支援、他の相談窓口との連携など養護者への適切な支援を行うことが重要です。

6 家族介護者の支援

○介護に携わる介護者家族への負担は、精神的・肉体的な疲労が特に大きなものとなっています。在宅介護を推進する上で、家族の負担を軽減するための支援の充実が求められます。

7 高齢者の住まいに係る施策

○介護や支援が必要になっても、可能な限り住み慣れた地域に住み続けることができるような住まいの確保が必要となります。また、自宅での生活が困難になった場合の施設への入所や、将来介護が必要になった場合に必要なサービスが提供されることが約束されている住まいへの住み替えなど、個々の高齢者の状況やニーズに沿った選択肢を用意するため、多様な住まいを確保することが重要です。

8 老人福祉施設の充実に係る施策

○今後も、高齢者の社会参加や生きがいづくりのニーズが多様化していく中、老人福祉施設などを効果的に活用し、高齢者自らが活動できる場の提供や、地域活動がしやすい機会の提供（きっかけづくり）などの自主的活動の支援が重要となっています。

第 3 章

計画の体系

〔 基本理念 〕

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生きがいをもって生活できる環境が整備され、
明るく活力のあるまちを目指します（総合計画より）

〔 項目 〕

〔 施策の方向性 〕

基本目標 1
高齢者が健康でい
きいきと暮らせる
まちをつくる

(1) 自立支援、介護予防・フレイル予防・重度
化防止、健康づくりの充実・推進

(2) 生きがいの推進

(3) 社会参加の促進

(4) 市独自の取り組み

(5) 成果指標

基本目標 2
介護が必要になっ
ても安心して暮ら
せるまちをつくる

(1) 在宅で暮らし続けるための重層的・包括的
な支援

(2) 認知症施策の推進

(3) 在宅医療・介護連携の推進

(4) 権利擁護の推進

(5) 高齢者虐待の防止

(6) 家族介護者の支援

(7) 高齢者の住まいに係る施策

(8) 老人福祉施設の充実に係る施策

(9) 災害への備えや感染症対策に係る体制整備

(10) 成果指標

基本目標 3
市民が市民を支え
るまちをつくる

(1) 地域課題の抽出・地域資源の把握、
解決策の検討

(2) 地域資源の開発と担い手の養成

(3) 地域のささえあい活動の促進

(4) 成果指標

第 1 章
基本目標の展開

第 2 章 介護保険制度の安定的な運営

(8) 老人福祉施設の充実に係る施策

取組名	取組概要	担当課
① 老人福祉センター（やまゆり荘）の利用促進 高齢者の居場所の確保	<p>「老人福祉センターやまゆり荘」は、指定管理者と連携し、高齢者の憩いの場、レクリエーションの場を提供します。</p> <p>【具体的な取組み】</p> <p>○老人福祉センターの利用者を増やすため、指定管理者と連携し、生きがいづくりや健康増進となる事業を実施します。</p> <p>○老人福祉センターで、あんま・マッサージ施術サービスを提供します。</p> <p>「老人福祉センターやまゆり荘」は、令和6年度末の指定管理の終了に合わせ、老人福祉センターとしての機能を終了します。その後は、高齢者を含めた多くの世代が利用できるなど、新たな施設としての運用を検討します。</p> <p>老人憩いの家は高齢者の憩いの場、居場所、レクリエーションの場として維持管理に努めます。</p> <p>【具体的な取組み】</p> <p>○老人福祉センターの機能終了後も、生きがいづくりや健康増進となる事業を実施し、居場所の確保に努めます。</p> <p>○老人憩いの家の修繕等に対応します。</p>	高齢者支援課
② 養護老人ホームとの連携	<p>経済的困窮や虐待などの理由により在宅で生活することができない高齢者が、一時的に生活し、社会復帰に向けた支援を受けるための施設と連携を図ります。</p> <p>【具体的な取組み】</p> <p>○市外の養護老人ホームと連携して対応します。</p>	高齢者支援課